2026. 11. 9

TOYOBO
Beyond Horizons

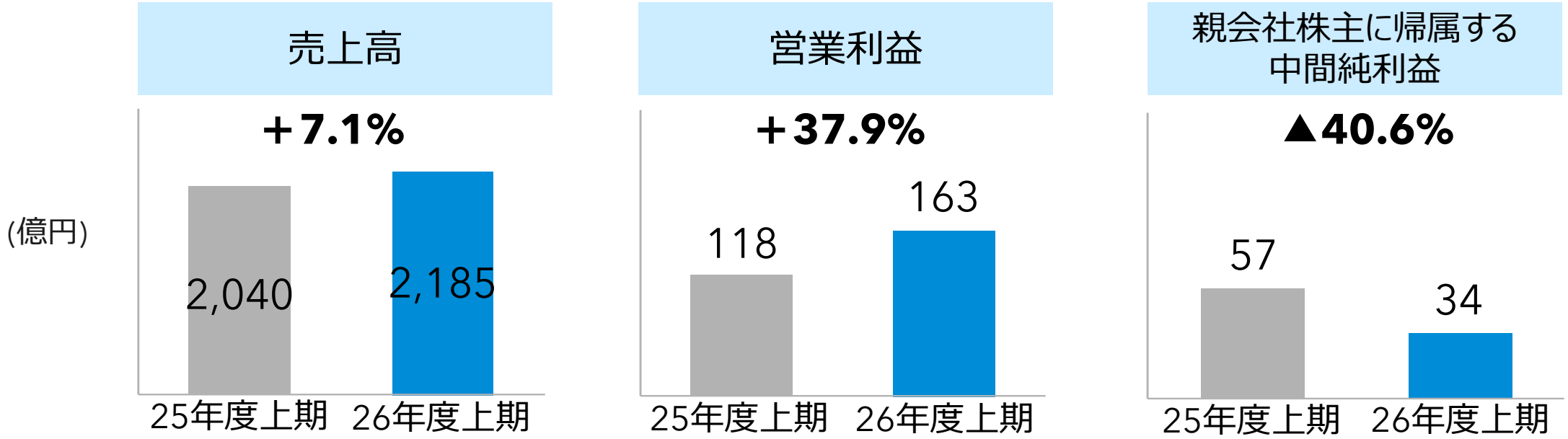
2026年度
第2四半期 決算説明

東洋紡株式会社

決算のポイント

第2四半期（中間期） 実績

中東情勢の影響を受けたものの、工業用フィルム、樹脂・ケミカルが堅調に推移し、
売上高増収、営業利益増益。中間純利益は減損損失等により減益



2027年3月期 通期予想

工業用フィルム、樹脂・ケミカルの堅調を踏まえ、通期営業利益を 270 億円へ上方修正。
当期純利益は、減損損失の計上および課題事業対策の実施により、40 億円へ下方修正。
配当予想は1株当たり 40 円を据え置く

決算サマリー｜PL

TOYOBO

(億円)

	25年度		26年度	上期増減	
	上期	下期	上期	金 額	率
売上高	2,040	2,175	**2,185**	+144	+7.1%
売上総利益	507	575	**558**	+51	+10.1%
（率）	24.8%	26.4%	**25.5%**	-	-
営業利益	118	161	**163**	+45	+37.9%
（率）	5.8%	7.4%	**7.4%**	-	-
営業外損益	▲ 17	▲ 33	**▲ 12**	+6	-
経常利益	101	128	**151**	+50	+50.1%
特別損益	▲ 30	▲ 5	**▲ 73**	▲ 42	-
親会社株主に帰属する中間純利益	57	54	**34**	▲ 23	▲40.6%
EBITDA *1	236	289	**305**	+68	+28.9%
EPS（円）	65.0	61.7	**38.6**	-	-
ROE *2	5.5%		**3.2%**	-	-
ROIC *3	3.8%		**4.4%**	-	-

*1　営業利益＋減価償却費（のれんを含む）
*2　26年度上期は年換算ベース。(中間純利益×2)÷期首・期末平均自己資本
*3　26年度上期は年換算ベース。(NOPAT×2) ÷(有利子負債+純資産)

営業外損益・特別損益

TOYOBO

営業外損益　内訳

(億円)

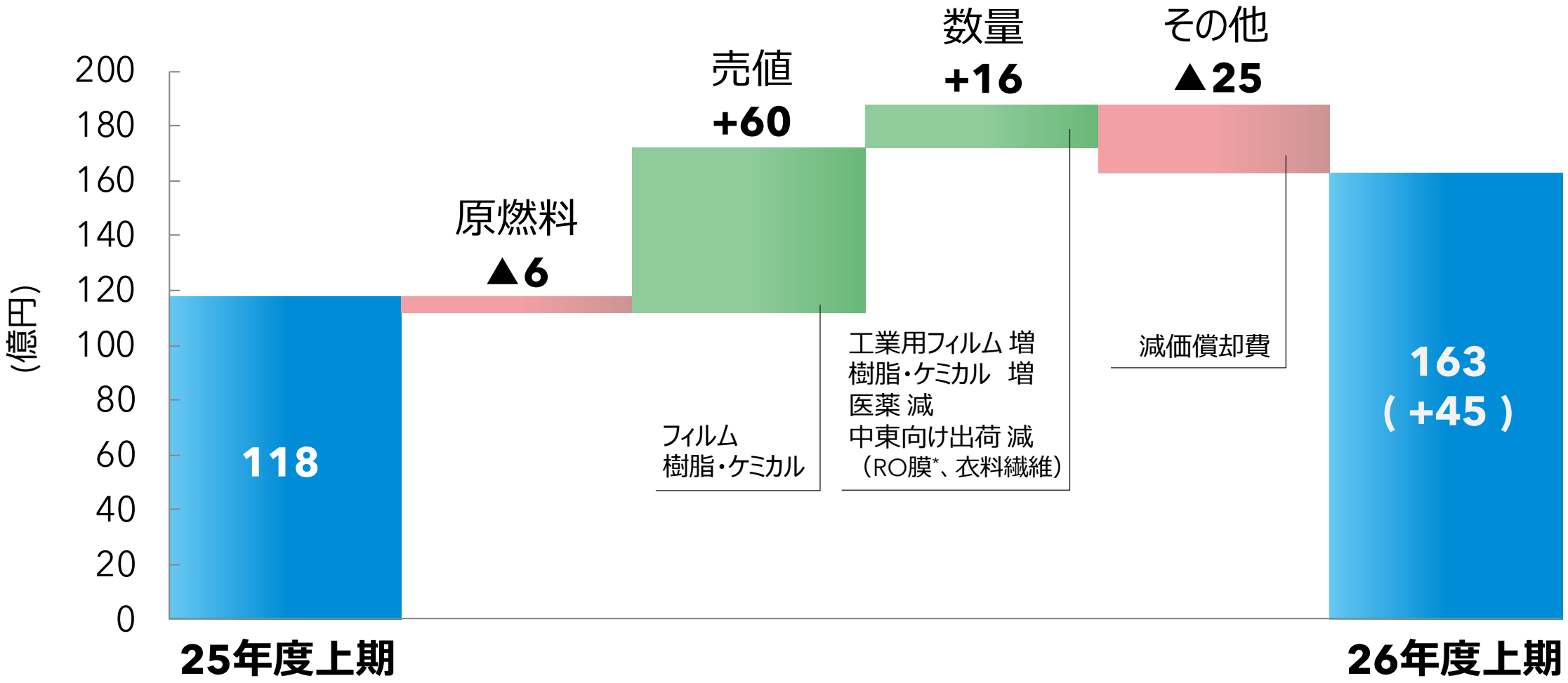
	25年度上期	26年度上期	増 減
受取配当金	3	**5**	+3
その他	12	**14**	+2
営業外収益　計	15	**19**	+5
支払利息	14	**16**	+2
その他	18	**15**	▲ 3
営業外費用　計	32	**31**	▲ 1
営業外損益　計	▲ 17	**▲ 12**	+6

特別損益　内訳

(億円)

	25年度上期	26年度上期	増 減
固定資産売却益	-	**13**	+13
特別利益　計	-	**13**	+13
減損損失	-	**68**	+68
固定資産処分損	10	**7**	▲ 3
投資有価証券評価損	-	**4**	+4
事業構造改善費用	-	**7**	+7
割増退職金	11	**-**	▲ 11
退職給付制度改定損	9	**-**	▲ 9
特別損失　計	30	**86**	+55
特別損益　計	▲ 30	**▲ 73**	▲ 42

営業利益の増減要因



	25年度				26年度	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
為替レート（円/US$）	144	147	154	157	160	159
国産ナフサ（千円/kl）	65	64	66	67	119	98

*海水淡水化用逆浸透膜

決算サマリー｜BS

(億円)

	25/3末	26/3末 (B)	26/9末 (A)	増 減 (A)-(B)
総資産	6,178	6,277	**6,094**	▲ 182
現預金	286	311	**268**	▲ 43
売上債権	1,062	1,017	**958**	▲ 59
棚卸資産	1,190	1,281	**1,309**	+29
有形固定資産	2,965	2,999	**2,880**	▲ 120
純資産	2,320	2,520	**2,500**	▲ 20
自己資本	1,953	2,133	**2,122**	▲ 11
うち利益剰余金	690	762	**761**	▲ 1
非支配株主持分	367	387	**378**	▲ 9
有利子負債	2,679	2,610	**2,479**	▲ 131
D/E レシオ	1.37	1.22	**1.17**	-
D/E レシオ（資本性調整後）*	1.15	1.03	**0.98**	-

* 劣後ローンおよび劣後債資本性調整後のD/E レシオ

決算サマリー｜CFほか

(億円)

	25年度		26年度	上期増減
	上期	下期	上期	
営業活動によるキャッシュ・フロー	275	175	**250**	▲ 25
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 171	▲ 100	**▲ 84**	+87
フリー・キャッシュ・フロー	104	75	**166**	+62
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 130	▲ 35	**▲ 206**	▲ 76
その他	6	7	**▲ 1**	▲ 6
現金及び現金同等物の増減額	▲ 20	47	**▲ 40**	▲ 21
現金及び現金同等物の期末残高	255	301	**261**	+6
減価償却費	118	128	**142**	+24
設備投資	160	131	**98**	▲ 62
研究開発費	68	73	**71**	+3

決算サマリー｜セグメント別

(億円)

	売上高			営業利益			
	25年度		26年度	25年度		26年度	上期増減
	上期	下期*	上期	上期	下期*	上期	
フィルム	865	886	**974**	86	80	**132**	+46
ライフサイエンス	165	180	**183**	1	▲ 1	**▲ 16**	▲ 17
環境・機能材	507	594	**556**	31	66	**52**	+22
繊維	399	406	**375**	▲ 0	10	**▲ 5**	▲ 5
不動産・その他	103	110	**96**	15	21	**13**	▲ 1
消去・全社	-	-	**-**	▲ 15	▲ 15	**▲ 15**	▲ 0
合計	2,040	2,175	**2,185**	118	161	**163**	+45

*新セグメントでの25年度 下期実績は、監査前の暫定値です。今後、変更になる可能性があります。

フィルム

(億円)

	25年度			26年度			上期増減	
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	金額	率
売上高	446	419	865	485	489	974	+109	+12.6%
営業利益	40	46	86	52	81	132	+46	+53.2%
（率）	9.0%	11.0%	10.0%	10.7%	16.5%	13.6%	-	-
EBITDA	65	71	136	82	112	194	+57	+42.1%

包装用フィルム

■ 原燃料価格高騰の影響を受け、価格見直しを実施

工業用フィルム

■ 液晶偏光子保護フィルムは、堅調に推移

■ セラミックコンデンサ用離型フィルムは、AIサーバー向けを中心に販売が拡大

ライフサイエンス

(億円)

	25年度			26年度			上期増減	
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	金額	率
売上高	80	85	165	91	92	183	+18	+10.9%
営業利益	2	▲ 0	1	▲ 5	▲ 11	▲ 16	▲ 17	-
（率）	2.0%	-	0.9%	-	-	-	-	-
EBITDA	11	10	21	7	4	11	▲ 10	▲45.3%

バイオ

■ 診断薬用原料酵素の欧米向け販売は好調も、遺伝子検査試薬など中国市場の販売は低調に推移。海外拠点における販売も減少

メディカル

■ 人工腎臓用中空糸膜は、販売増加も、減価償却費や原燃料価格高騰の影響あり

医薬

■ 受注減少に加え、設備更新に伴う減価償却費の負担が先行し、収益性が悪化

環境・機能材（主に東洋紡エムシー(株)）

(億円)

	25年度			26年度			上期増減	
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	金額	率
売上高	254	253	507	288	267	556	+48	+9.5%
営業利益	15	16	31	28	25	52	+22	+71.4%
（率）	5.8%	6.3%	6.0%	9.6%	9.2%	9.4%	-	-
EBITDA	26	27	53	41	38	79	+26	+49.1%

樹脂・ケミカル

- エンジニアリングプラスチックは、自動車用途を中心に販売が増加し、収益が改善
- 工業用接着剤“バイロン”は、海外向け電子材料用途と接着・コーティング用途の販売が好調に推移

環境・ファイバー

- 海水淡水化用逆浸透膜（RO膜）の販売が減少

  LIBS*製造工程で使用されるVOC回収装置の販売が減少
- 不織布マテリアルは、土木・建築や自動車用途の需要堅調により収益性が改善

* リチウムイオン電池セパレータ

繊維

(億円)

	25年度			26年度			上期増減	
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	金額	率
売上高	196	203	399	188	187	375	▲ 24	▲6.1%
営業利益	▲ 1	0	▲ 0	▲ 4	▲ 1	▲ 5	▲ 5	-
（率）	-	0.2%	-	-	-	-	-	-
EBITDA	5	7	12	3	5	8	▲ 4	▲35.6%

衣料繊維

■ 中東向け特化生地の販売減少により、収益性が低下

エアバッグ用基布

■ 海外拠点の集約を進め、生産効率が向上したことにより、収益性が改善

2026年度の事業環境見通し

TOYOBO

セグメント	事業	見通し
フィルム	包装用	前年度並みも、後半やや減速
	工業用	液晶偏光子保護フィルムは堅調な需要が継続
		MLCCはAIサーバー関連需要を中心に拡大
ライフサイエンス	バイオ	欧米向け堅調も、中国での競争激化
	メディカル	人工腎臓用中空糸膜は国内外の需要堅調
環境・機能材	樹脂・ケミカル	自動車向けは地域差あるも需要は堅調
		電子材料向けは国内外で需要堅調
	環境・ファイバー	海水淡水化用逆浸透膜（RO膜）は中東情勢の影響あり
		不織布マテリアルは前年度並みの需要を想定
繊維	衣料繊維	中東向け特化生地は中東情勢の影響あり（出荷減少等）
	エアバッグ	自動車向けは地域差あるも需要は堅調
共通		国産ナフサ価格は高止まり　（26年8月時点から下線部を変更）

2026年度 業績見通し

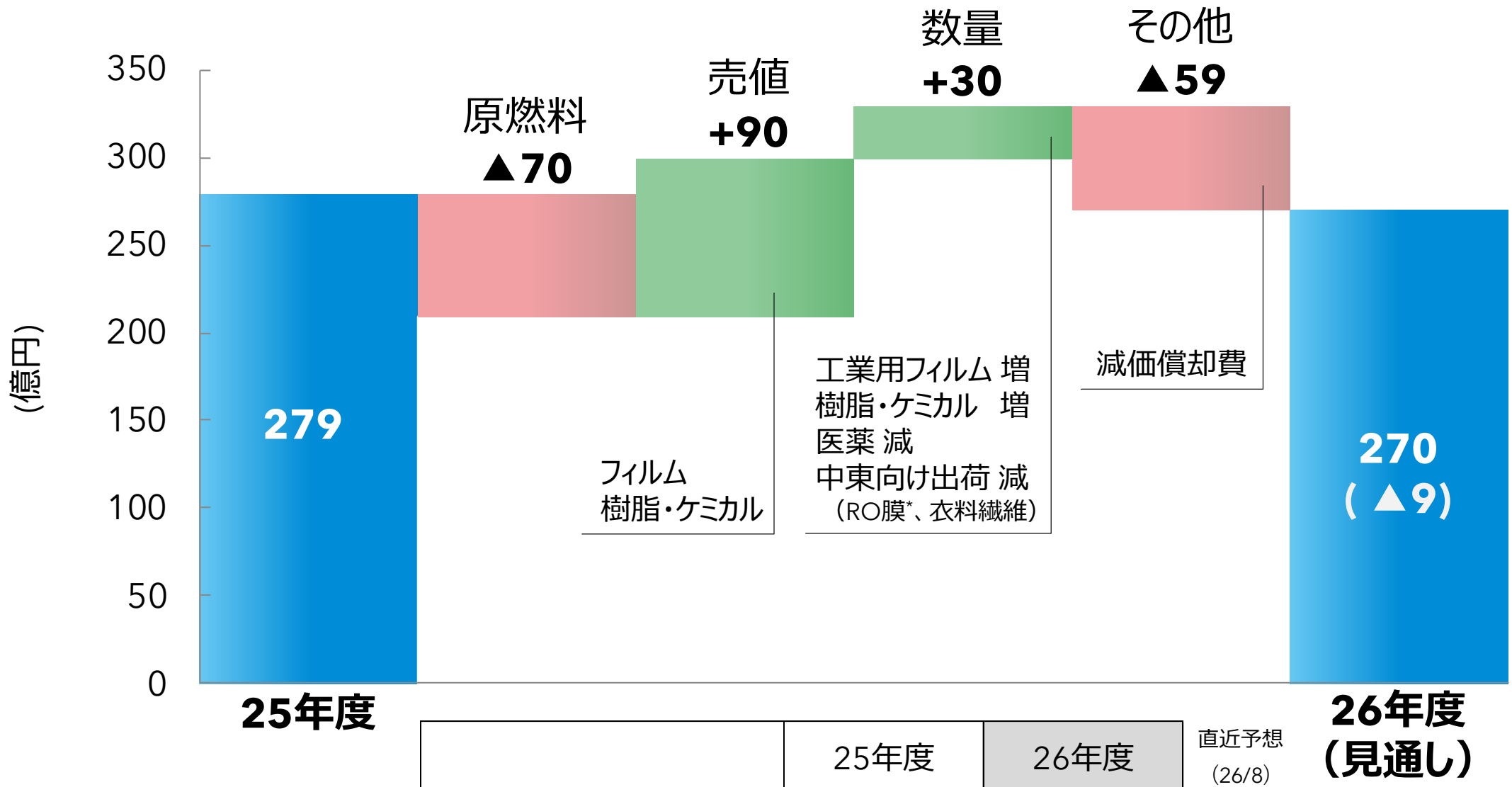
TOYOBO

工業用フィルム、樹脂・ケミカルの堅調を踏まえ、通期営業利益を 270 億円へ上方修正。
当期純利益は、減損損失の計上および課題事業対策の実施により、40 億円へ下方修正。
配当予想は1株当たり 40 円を据え置く

(億円)

	25年度	26年度			増 減		直近予想
	実績	上期	下期	見通し	金 額	率	(26/08)
売上高	4,216	2,185	2,215	**4,400**	+184	+4.4%	4,350
営業利益	279	163	107	**270**	▲ 9	▲3.2%	230
(率)	6.6%	7.4%	4.8%	**6.1%**	-	-	5.3%
経常利益	229	151	70	**221**	▲ 8	▲3.4%	185
特別損益	▲ 35	▲ 73	▲ 38	**▲ 111**	▲ 76	-	▲ 40
親会社株主に帰属する当期純利益	112	34	6	**40**	▲72	▲64.2%	70
EBITDA	525	305	245	**550**	+25	+4.7%	515
EPS（円）	126.7	38.6	6.7	**45.3**	-	-	79.3
減価償却費	246	142	138	**280**	+34	+13.7%	285
設備投資	290	98	107	**205**	▲85	▲29.4%	225
研究開発費	141	71	79	**150**	+9	+6.3%	150

営業利益の増減要因



	25年度	26年度	直近予想 (26/8)
為替レート（円/US$）	151	156	161
国産ナフサ（千円/kl）	65	103	91

*海水淡水化用逆浸透膜

セグメント別見通し

(億円)

売上高	25年度 実績			26年度 見通し			通期増減	直近予想 (26/08)
	上期	下期*	通期*	上期	下期	通期		通期
フィルム	865	886	1,752	**974**	**926**	**1,900**	+148	1,850
ライフサイエンス	165	180	345	**183**	**217**	**400**	+55	390
環境・機能材	507	594	1,101	**556**	**594**	**1,150**	+49	1,150
繊維	399	406	805	**375**	**385**	**760**	▲ 45	750
不動産・その他	103	110	213	**96**	**94**	**190**	▲ 23	210
消去・全社	-	-	-	**-**	**-**	**-**	-	-
合計	2,040	2,175	4,216	**2,185**	**2,215**	**4,400**	+184	4,350

営業利益	25年度 実績			26年度 見通し			通期増減	直近予想 (26/08)
	上期	下期*	通期*	上期	下期	通期		通期
フィルム	86	80	166	**132**	**50**	**182**	+16	140
ライフサイエンス	1	▲ 1	1	**▲ 16**	**1**	**▲ 15**	▲ 16	1
環境・機能材	31	66	97	**52**	**52**	**104**	+7	97
繊維	▲ 0	10	9	**▲ 5**	**8**	**3**	▲ 6	1
不動産・その他	15	21	35	**13**	**13**	**26**	▲ 9	21
消去・全社	▲ 15	▲ 15	▲ 29	**▲ 15**	**▲ 15**	**▲ 30**	▲ 1	▲ 30
合計	118	161	279	**163**	**107**	**270**	▲ 9	230

* 新セグメントでの25年度 下期および通期実績は、監査前の暫定値です。今後、変更になる可能性があります。

2026年度 経営方針

TOYOBO

未来をつくるために稼ぐ力と資産効率を高める

1. 安全・防災、品質、コンプライアンスの徹底（大前提）
2. 投資成果の実現（設備投資、開発投資）
3. 価値に見合ったプライシングの徹底
4. 資産効率改善（課題事業対策、CCC短縮）
5. 投資・経費の絞り込み、TX*具体化、コストダウン

*Toyobo-Transformation

投資成果の実現｜主要な成長投資の進捗

TOYOBO

工業用フィルム
液晶偏光子保護フィルム"コスモシャインSRF" 製造設備

所在地	既存ライン改造	生産能力
つるがフイルム工場（敦賀事業所内）		約 3 割増強

- 液晶ディスプレー画面の大型化で、引き続き需要は堅調
- 改造設備の立ち上げは計画通りに進捗

2026年度下期からの段階的な販売寄与を見込む

工業用フィルム
セラコン用離型フィルム 製造設備

所在地	投資額	生産能力
宇都宮工場	約 200 億円	約 2万 t / 年

- AIサーバー関連需要を中心に拡大
- 宇都宮工場の新設備は順調に立ち上がり

新設備の増強効果により、販売数量増を見込む

メディカル
人工腎臓用中空糸膜 一貫生産工場

所在地	投資額	
大館透析膜工場（ニプロ㈱大館工場内）	約 50 億円	一貫生産体制により生産効率を向上

- 人工腎臓中空糸膜の需要は堅調
- 歩留まり改善など生産性向上を進めている

2026年度下期からの収益寄与を見込む

課題事業対策｜医薬、繊維

医薬品製造受託事業　固定資産の減損損失を計上

・減損損失：65 億円
・競合製品の台頭による受託数量の大幅減により、収益性が悪化
・新規案件の受注活動は順調に進むも、収益化に時間を要する

今後は、新ラインの早期収益化、設備の集約により、業績回復を目指す

衣料繊維　子会社（エルサルバドル）の事業休止

・名称 / 設立年月　：INDUSTRIAS UNIDAS, S.A. / 1955年9月
・ポートフォリオ改革の一環として、2026年11月末に事業休止予定

休止に伴い、以下の特別利益、特別損失を計上（見込み含む）

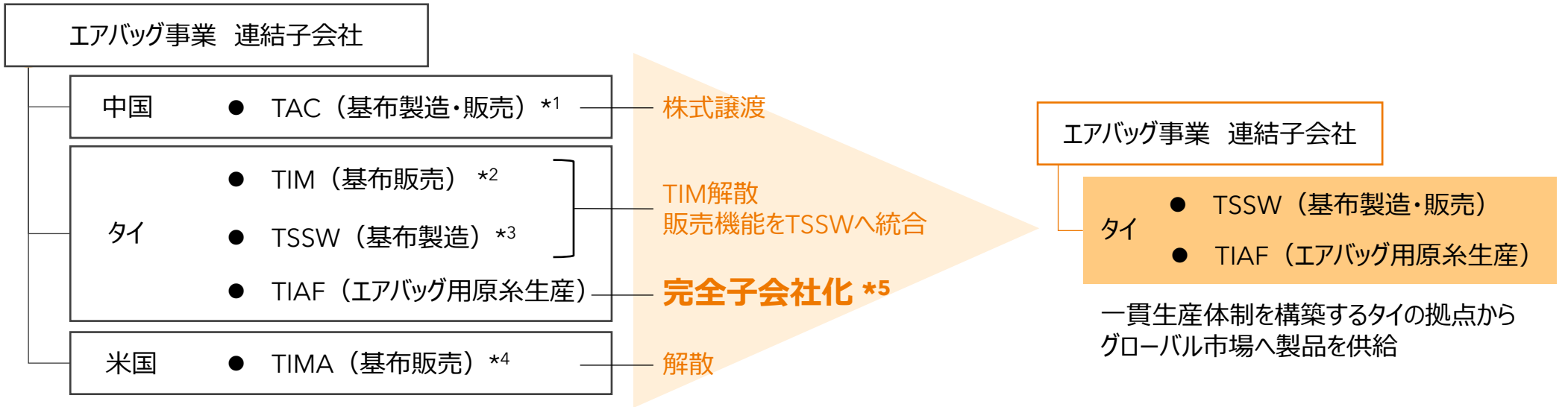
	特別利益	特別損失
26年2Q	保有資産（土地）の売却益　：13 億円 （第1回引渡し）	事業構造改善費用　：5 億円 （退職関連費用）
今後	〃　（第2回引渡し）　27年5月を予定	事業休止関連の費用（見込み）

TOYOBO

エアバッグ用原糸生産会社（タイ）の完全子会社化

・名称 / 設立年月　：Toyobo Indorama Advanced Fibers Co., Ltd.（“TIAF”）　/ 2020年11月
・株式取得日　：2026年10月30日

エアバッグ事業では、子会社の解散や株式譲渡などの再編を行い、タイへ事業を集約
TIAFの完全子会社化により、意思決定の迅速化、経営資源の最適配分を図り、グループ一体で競争力の強化を目指す



*1 東洋紡汽車飾件（常熟）有限公司 （“TAC”） 2026年2月に保有株式を譲渡
*2 Toyobo Industrial Material (Thailand) Ltd.（“TIM”）清算手続中
*3 Toyobo Saha Safety Weave Co.,Ltd.（“TSSW”）
*4 Toyobo Industrial Materials America, Inc. （“TIMA”） 清算手続中
*5 従前は持分法適用関連会社

補足

セグメント別情報

TOYOBO

(億円)

売上高	25年度					26年度	
	1Q	2Q	3Q*	4Q*	通期*	1Q	2Q
フィルム	446	419	435	451	1,752	485	489
ライフサイエンス	80	85	83	97	345	91	92
環境・機能材	254	253	272	322	1,101	288	267
繊維	196	203	197	209	805	188	187
不動産・その他	53	50	49	61	213	51	45
消去・全社	-	-	-	-	-	-	-
合計	1,029	1,011	1,035	1,140	4,216	1,104	1,081

営業利益	25年度					26年度	
	1Q	2Q	3Q*	4Q*	通期*	1Q	2Q
フィルム	40	46	42	38	166	52	81
ライフサイエンス	2	▲ 0	▲ 4	3	1	▲ 5	▲ 11
環境・機能材	15	16	23	44	97	28	25
繊維	▲ 1	0	4	6	9	▲ 4	▲ 1
不動産・その他	7	7	8	13	35	6	7
消去・全社	▲ 7	▲ 8	▲ 8	▲ 7	▲ 29	▲ 6	▲ 8
合計	56	62	65	96	279	71	91

* 新セグメントでの25年度 3Q~4Qおよび通期実績は、監査前の暫定値です。今後、変更になる可能性があります。

東洋紡グループ統合報告書「TOYOBO REPORT 2026」を公開

2026年版のポイント

- 「2030中期経営計画」で掲げる、「事業ポートフォリオ改革」「未来への布石」「基盤づくり・強化」の3つの施策について詳しく解説
- 「企業価値＝経済的価値×社会的価値」の考え方のもと、当社の“めざす姿”と価値創造の道筋を提示
- 「ワンチーム経営」を掲げ、継続的な企業価値向上とROE8%超の達成に向けた姿勢や決意などを紹介

ダウンロードURL

日本語版：https://ir.toyobo.co.jp/ja/ir/library/integrated.html

英語版：https://ir.toyobo.co.jp/en/ir/library/integrated.html



TOYOBO

■ EcoVadis社 サステナビリティ評価で「シルバー」獲得



・EcoVadis社：サステナビリティ関連の取り組みの国際的な評価機関
「環境」「労働と人権」「倫理」「持続可能な資材調達」の
4分野における企業の取り組みを評価

・2019年度より8年連続でメダルを獲得

・2026年6月に対象企業の上位15%に与えられる「シルバー」評価を獲得

サプライチェーン全体でのサステナビリティ向上につながる継続的な取り組みにより、過去最高の総合スコアを更新

EcoVadis 表彰ページはこちら https://recognition.ecovadis.com/craxEaNOSkeaELiTP56cdg

■ GPIF が採用するESG投資指数*のうち5つの構成銘柄に継続選定

*国内株式を対象

- FTSE JPX Blossom Japan Index
- FTSE JPX Blossom Japan Sector Relative Index
- MSCI 日本株 ESG セレクト・リーダーズ指数
- MSCI 日本株女性活躍指数（WIN）
- S&P/JPX カーボン・エフィシェント指数

ご注意

本資料中の見通しや目標等、将来に関する記載事項は、本資料作成時点において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後の種々の要因によって、本資料の記載事項と異なる場合がありますことをご了承ください。

東洋紡株式会社

All Rights Reserved

TOYOBO

Beyond Horizons

© TOYOBO CO., LTD. All rights reserved.